

コロナ禍で考えた、これからの教育課程

沼澤賢

はじめに

教育課程は、教育活動全体の基幹となる計画であり、①教育目標の設定②教育内容の選択や組織・配列③授業時数によって構成されています。情報化、グローバル化、そして何よりもコロナ禍における教育課程はどのようであったら、「子どもの可能性を引き出し、変革主体になること」ができるのでしょうか。教育課程の改善は、春夏秋冬の衣替えなのではなく、真に服を着ている子どもたちの心と体の成長になっているかどうか。このような問いもちつつ、コロナ禍で考えた、これからの教育課程について述べていきます。

改善の具体策

1 自分での評価は自分で行う。-通知表は子ども自らがつける。-

これまで、通知表・成績と言えば、担任が評価するものでした。しかし、評価の主体を子どもに返すことによって、子ども自身が振り返る力を高め、自律心を育てることにつながると考えます。担任は、その振り返りに対して、助言をしていく形にするのでしょうか。

2 家庭人を育てる① -自炊の日を設定する。-

臨時休校中の困ったことの一つに、どのようにして家で過ごさせるか、という親の課題が報道で取り上げられていました。特に、ごはんをどうするかということで頭を悩ますことが多かったようです。世の中が便利になたのに、ご飯をつくれない子どもは大勢いることに危機感を覚えました。そのような背景から、「自炊の日」を設定することはどうでしょうか。子どもたちが、自ら調理をして食べるのです。やり方は色々ありますが、そのことによって、子どもたちの家庭で生きる力も育まれるのではないのでしょうか。

3 家庭人を育てる② -第1次産業体験-

八千代市は、昔から酪農や梨づくりが盛んに行われてきました。現在は、昔と比べ社会を支える構造が大きく変化し酪農や農家に従事する仕事が減ってきているのは、よく分かることと思います。そのためか生きることに直接関わる「食」、とくに「食の始まり」が見えなくなっています。そこで、よりダイナミックに6年間を通して体験活動を取り入れることはどうでしょうか。生活や理科、総合で行われてことを中心としつつ、例えば、4・5・6年が3泊4日~5泊6日の中で、必ず農業や酪農、水産業体験を入れるのはどうでしょうか。そのことで、よりたくましい家庭人が育つのではないのでしょうか。

4 家庭人を育てる③ -「問いの時間」の設定-

これから大切になってくることは、最適解を見つけたり、納得解を述べたりすることと言われています。しかし、もう一步踏み込んで大事だと思うのは、「問いを

もつこと」ではないでしょうか。具体的には、朝の時間「問いの時間」を設定し、自分はどんな勉強をしたいのか、不思議に思っていることは何かを書き出したり、友達と話し合ったりします。その問いを生活や総合で解決していきます。一連の活動を通して、問いのもてる人間になっていくのではないのでしょうか。

5 高学年における教科担任制および全学年における単元交代制

小学校高学年において、教科担任制を取り入れます。何の教科をするのかは、学校・学年の判断で行います。教科担任にすることで、教員の専門性を生かせる長所があります。しかし、生徒指導の問題など、こまめに連絡を取り合わなければ、ゆれる動く子どもの心や子どもの課題に対応しづらくなってしまふという短所も考えられます。

全学年における単元交代制とは、単元ごとに教えるクラスを変えろということでもあります。たとえば、自分のクラスで物語の単元の授業を行ったら、次の説明文単元では、隣のクラスで授業をするといったことです。そのことで、学年全体の子どもたちを理解することできるとともに、子どもたちにとってもいつもと違ふ先生が教えてもらうことで、緊張感のある授業ができるのではないのでしょうか。

結びに

自分のレポートを読み返してみると、「家庭人」という言葉が気になりました。今回のレポートの挑戦は、自分で言葉を作ってみることでした。この「家庭人」とは、外へ外へ向かう「社会人」に対して、もっと内側を見てはいいのではないかと、もっと家に光を当てることが大切ではないかと思ひ、つくってみました。「社会でどう生きるか。」ということに答えるのが、学校教育の役割であると思ひます。しかし、このコロナ禍で、「外」出る前に、自分の生活の基盤となる「内」＝「家庭」が脆弱になっているのではないかと感じたのです。だからこそ、「外」も「内」も抱え込み、包摂するものとしての学校が大事であると思ひ、「家庭人」を育てる教育課程改善のイメージを述べました。

その時代において学校教育に求められることは、たくさんあります。あまりにもありすぎて、「学校は社会のゴミ箱」と初任の時の先輩が揶揄していたのが今でも忘れられません。私たちは、そんなところにいるのではなく、「可能性に満ちた」ところにいるのです。「ゴミ箱ではなく、宝箱」になるようにしなければならぬと思ひます。そのためのキーワードが「家庭人を育てること」「問いをもつこと」そして、「仲間をもち話し合うこと」であります。来年度もたくさんの仲間を大切に思ひ、よりよい未来が築けるように思ひたいと思ひます。1年間ありがとうございました。